

平成27年度第5回 地球温暖化対策実行計画改訂部会 議事要旨

日時： 平成28年1月14日（木）午後1時30分～午後3時30分

場所： 市役所第1庁舎4階委員会室

出席委員：

佐藤部会長、金森委員、春田特別委員、細井特別委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

染谷環境政策・放射能対策課長、片浦環境政策係長

遠藤主査、渡辺主任主事

傍聴者：0名

議 題：

- 1 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について
- 2 その他

資 料：

- 1 区域施策編について
 - ・資料1 部会意見への対応
 - ・資料2 二酸化炭素排出量BAU予測（修正）
 - ・資料3 目標値案（修正）
 - ・資料4 算出根拠（①～②、修正）
 - ・資料5 施策体系案
 - ・資料6 削減可能量積上げ
 - ・参考資料 総合計画指標

発言者	要旨
(議題1) 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について	
～事務局より、前回部会意見への対応、2013年度排出量算定を受けての資料修正についての説明～	
春田委員	目標値は、流山も頑張っているという数字が望ましい。現在出している数字は、国の目標値に人口増を加味しているため26%よりは小さくなる。市民に対して頑張っている数字だと説明できるか。
事務局	提示している目標値の総量は国に比べると小さく見えるが、一人当たりにしたときに20%を超えるなど大きな数字となっている。
春田委員	部門別に見て、流山の人口増加が影響するのは。
事務局	部門別のエネルギー消費など活動量が按分されているものだけなので、人口・世帯が関係するのは民生家庭のみとなる。民生家庭部門のCO2排出量は基本的に〔世帯あたりエネルギー消費量(燃料別)〕×〔市域の世帯数〕×〔排出係数〕で算定している。
春田委員	活動量はどのように予測しているか。
事務局	活動量予測は線形の回帰分析ではあるが行っている。
春田委員	国や県の活動量を単純に分配しているのではないか。
金森委員	単純な分配ではない。部門ごと、部門の中でも電気、ガスなどの要素が細かくある。また、一般の市町村と県や政令市等が行う算定方式自体が異なる。
春田委員	目標と結果が乖離しないようにしたい。
事務局	予測の範囲ではあるが乖離しないためにBAU推計を行っている。
春田委員	算定結果は、環境白書で公表しているものと同じか。
事務局	実行計画は対象ガスが二酸化炭素であるが、白書はメタン、一酸化二窒素も含んだ数字となっている。それを除けば同じものを使っている。
佐藤部会長	国の26%を念頭においた数値とするかどうかということかと思うが、まず市の目標値案は26%を前提として試算し

	<p>ている。また、国と市の差異については、例えば森林面積を見ても国土全体と流山を見たときに大きく異なる。按分での算定を行っている限り乖離は必ず起こると思うが、そういったことを勘案した上でどこまで近づけるかかと思うがいかがか。</p>
春田委員	<p>国が目標値を達成出来なかったから、流山も達成出来なかったとにならないようにしたい。</p>
事務局	<p>達成するために施策に対する削減量を資料として出している。</p>
春田委員	<p>この施策を行えば本当に削減量が目標に依じて削減できるのか。</p>
事務局	<p>少なくともマニュアルにある施策と削減量であるので、ここをある程度信頼しないと計画自体ができない。</p>
金森委員	<p>目標値の考え方であるが、色々な試算を行ったと思われる。A・B案の数字自体は概ね妥当な目標値と思うが、算定方法が説明しづらい方法を用いている。推奨する方法としては、国の部門別目標値、例えば40%とあったら、これを先に国の将来予測人口で割って、一人当たり何%減という目標値を出してしまい、これを流山の予測人口に当てはめるとい手法を検討してみてはいかがか。</p>
事務局	<p>部門別に見たときに、人口は国の将来予測が出ているが、他の部門の活動量は将来的な予測数値が見つからなかった。活動量当たりで原単位を出さないでよいか。</p>
金森委員	<p>とりあえずは人口で行ってよいと思う。国の目標を意識したものとして説明ができる。</p>
事務局	<p>了解した。総量目標についてはいかがか。</p>
春田委員	<p>26%から後退した消極的な数字とはしてほしくないが、説明ができるものであればよい。</p>
<p>～目標値の試算については、次回部会までにメール等で提示する～ ～事務局より、施策体系案についての説明～</p>	
佐藤部会長	<p>2020（ニコニコ）プランの名称についてはどう考えているか。</p>

事務局	20%という数字は修正する可能性が高いと思うが、ソフトパワーで無理なくとの意味もあるので、名称は継承したい。
佐藤部会長	施策の表記について、「流山」の表記の有り無しに意味はあるか。
事務局	表記が揺れているが、現状では内容について提示しているものとして見ていただきたい。施策名称は今後、皆様のご意見をいただきながら調整していきたい。
事務局	現行計画の重点プロジェクトでは①環境家計簿②事業者の環境マネジメントシステムについては、スマートメーターの普及や、小規模事業者の反応を勘案すると、必要なものとの認識はあるが指標として特出しをする形を修正したい。
細井委員	産業部門・民生業務部門の算定に用いる活動量は製品出荷額と業務床面積ということでよいか。環境ISOを重点プロジェクトから整理し、住民・事業者への施策に統合するのは良いと思う。
佐藤部会長	重点プロジェクト6の緑化に関してはあまり進んでないと伺ったがいかがか。
事務局	現行計画では、都市緑化の排出量算定方法が確立されていないという問題はあるが、施策として植樹等に力を入れている。
佐藤部会長	市内の緑地等が目立って少なくなっているのではないかと懸念はある。京都議定書の二酸化炭素吸収源としては、管理された大規模な森林であるが、二酸化炭素吸収源という言葉を経指標に用いてよいかどうかの検討は必要。
事務局	指標はみどりの課で扱っているもので、市長が特に緑化に力を入れていることもあり、この呼称を使っている。
細井委員	都市緑化は排出量算定には含めないということによいか。
事務局	他の施策のような排出量の抑制ではなく、吸収に関するものとなる。部会長のおっしゃるとおり、都市緑化での吸

	収量は今のところ算定できないので、排出量算定にも反映しないが施策としては重要なものと位置づけている。
春田委員	効果がある施策はどのあたりと見ているか。
事務局	国の施策の積み上げを見ても、LED、太陽光、自動車などは、市町村でも行える効果の高いものと国が考えているのが分かる。こういったところに取り組んでいくことになるだろう。
春田委員	示された指標を施策に取り込んでいく方向になるのか。
事務局	現状で得ることのできる指標を参考に示しているので、こういった施策が必要になるかの具体的な審議は今後行っていただきたい。
佐藤部会長	例えば交通に関して、警察の領域かと思うが信号機が一定スピードで進む際に止まらないような設定の仕方などは効果がありそうだ。
事務局	市でもエコドライブ講習会など行っているが、信号前に速めに速度を落とすなどのアクセルワークは効果がある。
春田委員	市ができる施策としてはやはり補助金か。交通施策もそうだが、ある程度税金を投入しないと効果は出ないだろう。
細井委員	流山が財政投入をしてその効果が流山の排出量算定に直結するのなら良いが、一概にそういかないところが難しい。
事務局	指標には段階があるので、最終的な目標指標である二酸化炭素排出量があり、逆に下からは市が行う施策の活動指標、それに応じた市民などの反応を表す成果指標などがある。どの施策でどれだけの削減効果というのは正直難しいと思っており、活動指標を管理していくのがよいと思う。
春田委員	活動指標をCO2削減量に落とし込むことは必要である。例えば、ぐりーんバスの利用人数から、どれだけ二酸化炭素を削減したかは推定値でも良いので出さないといけないと思う。
事務局	結果としての効果算定も重要だが、より重要なのは効果の高い事業の選択で、こちらに注力すべきかと考える。
細井委員	例えばぐりーんバスに1回乗ったことでどれだけの効果

	があるというのを示すと啓発的にも面白い。
事務局	そういう意味であれば、より効果のある選択をしてもらうために良いと思う。評価というより個別の取組みの一つとして行うとよいかもかもしれない。
佐藤部長	太陽光の奨励金交付以外の設置件数などは把握しているか。
事務局	最近、経産省で市町村別の設備認定件数等を公開するようになった。
佐藤部長	できる限り労力のかからない方法で効果の高い方策を選択してほしい。
春田委員	今後、太陽光発電設備がどの程度見込めるかが重要だ。
細井委員	F I T 縮小の影響は大きいと考えられるので、今後は新築住宅にどう設置されていくかだと思われる。
細井委員	1つ目の施策のボリュームが大きく感じられるがバランス的にはどうか。
事務局	法定4項目にある住民・事業者の取組みが対応するイメージになっている。
佐藤部長	緑化に関するものをまとめれば法定4項目と同じ整理になるが。
事務局	法定の3つ目が、非常に広範囲のものを定めているため、緑化と交通施策を分割している。
金森委員	体系は概ね良いと思う。適応策を入れるのはよいが、具体的に定める内容は想定しているか。また、前回も話しているが、市が行うことに加え、市民が行うべきことも記載できると良い。温暖化は重要な問題であるが、温暖化単独で資金を投入することは難しくなっている。街づくりや他部門の効果と、温暖化を組み合わせる方向で考えるべきで、例えば温暖化対策にも良いし、合わせて住民が住みやすくなるようなものを提案していく必要がある。これが無いと広報だけになってしまうので、他部門との連携をこれまで以上に図ってほしい。
佐藤部会	各委員の意見を踏まえ、具体的な施策に落とししていくも

長	のとし、体系整理の方向性はこれでよいか。
～異議なし～	
議題2「その他」	
事務局	2月の上旬に次回部会を行いたい但都合はいかがか。
<p>～2月10日（水）午後1時30分からとした。</p> <p>～次回審議内容は、目標値、施策の方向性、骨子とし、事務局より案を示すものとした。</p>	